

子育て世代を 強力にサポート!



市では、安心して子育てができる環境を目指して、さまざまな子育て支援を実施しています。今回は、今年度予算を措置し、強力に取り組む「子ども・子育て支援」や「仕事と子育ての両立支援」など、各種子育て支援事業を特集します。

◎問い合わせ
秘書広報課 ☎23-3174

子育てしやすいまちづくり を強力に推し進めます!

核家族化や地域コミュニティの希薄化により、周囲から子育てに対する支援や協力、助言を得ることが難しくなるなど、子育てを取り巻く環境は大きく変化してきています。孤立感や不安を抱えながら、子育てをする人も少なくありません。

また、より多くの女性が活躍できる社会を作るためには、安心して仕事に専念できる子育て支援が必要不可欠です。

市では、このような現状に対応し、都城で暮らす全ての子育て世代が、安心して子育てができる環境の整備に力を入れて取り組んでいます。

予算編成に当たり、柱とした「子ども・子育て支援」では、4月から乳幼児医療費の無料化を実施。乳幼児の健やかな成長を支援します。「仕事と子育ての両立支援」では、ファミリーサポートセンターの利用料の一部を助成したり、放課後児童クラブを追加設置したりするなど、働きながら子育てをする皆さんを支援します。これらの事業を通して、子育て世代を強力にサポートします。

子育てに悩んでいる人に 寄り添います

ホームスタート支援事業

予算額 60万円

研修を受けた地域の子育て経験者が、未就学児のいる家庭をボランティアで訪問する「ホームスタート」。産前からの利用も可能で、話し相手になったり、一緒に出かけたりしながら、お母さんの気持ちに寄り添います。

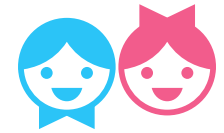
現在、市内では市民団体「りんごの木」が活動していて、昨年度は、3組の家庭を延べ30回以上訪問し、子育ての悩みなどの相談を受け付けました。子育てに悩んだときには、一人で悩まずに気軽に相談ください。

ホームスタート・りんごの木

☎090-1250516925

mailto:kodomo_yume_mirai@yahoo.co.jp





4月から 乳幼児医療費の 自己負担を無料化!

乳幼児医療費助成事業

予算額 4億783万円

市では、乳幼児期の疾病などを治療しやすくし、健全な発育を促すため、乳幼児の医療費を助成しています。

昨年度までは、通院にかかる健康保険内の自己負担額が1レセプト350円必要でしたが、4月からはその自己負担の無料化を実施。子育て世代の医療費負担を軽減し、子どもの健全な成長を全力で応援します。

制度利用の流れ

対象は、小学校就学前の児童です。出生や転入などにより新たに受給資格が生じた場合は、こども課または各総合支所市民生活課に、乳幼児医療費受給資格登録申請書を提出ください。なお、申請時には、次の書類を持参ください。

- ・乳幼児本人の健康保険証
- ・保護者名義の預金通帳またはキャッシュカード



- ・印鑑（スタンプ式を除く）
- ・転入の場合、保護者の所得証明書（所得額・扶養人数が確認できるもの）

申請後に、受給資格証を発行します。健康保険証と一緒に窓口で提示してください。なお、次の場合は、いったん医療機関での自己負担が必要ですが、市に請求すれば乳幼児医療費助成金を支給します。

- ・資格証を忘れて受診したとき
- ・県外の保険医療機関で受診したとき
- ・治療用装具を作製したとき
- ・養育医療（未熟児医療）を受けたとき

子育て情報を インターネットで入手

3月に、子育て支援に関する情報や施策を分かりやすく提供する、子育て応援総合サイト「はぴみやこんじょ」を開設。目的別や年齢別などで検索しやすく、親子で楽しめるイベントや施設検索、行政情報など、子育てに役立つ情報が盛りだくさんです。

また、今年の9月から、スマートフォンやパソコンを使って子育て情報を閲覧できる電子母子手帳サービスも開始予定です。身長や体重などの健康診断の結果や予防接種の履歴などが閲覧できるほか、市が実施する子育てイベント情報なども入手できます。子育て日記機能も備えていますので、楽しい子育てに役立ててください。ただし、利用には、マイナンバーカードが必要です。





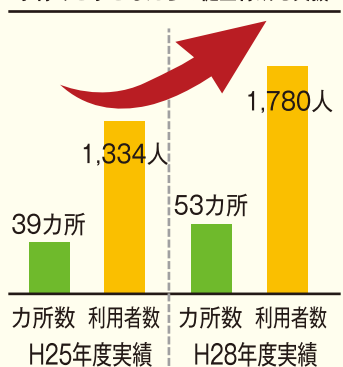
放課後児童クラブ

放課後児童クラブ設置推進事業

予算額 5億1,726万円

市では、放課後や夏休みなどの学校休業日に、保護者が就労などの理由で子どもの世話ができない世帯に対し、放課後児童クラブを開設しています。安全で充実した生活を送れるよう、小学校や児童館、保育園などを利用。今年度、6カ所を追加設置し、直営と委託とを合わせて59カ所のクラブで、子どもたちの笑顔があふれます。

子育てと子どもたちの健全育成を支援



放課後児童クラブ空調設置事業

予算額 2,872万円

13カ所の放課後児童クラブに空調機を設置します。



児童クラブ利用者の声



高田さん家族（早鈴町）
左から寧々さん・理恵さん・朝陽さん

自分はもちろん、両親も仕事をしていたり、周りに子どもを預ける環境がなく、児童クラブを利用しました。最初は子どもたちがなじめるか不安もありましたが、違う学校の友達もでき、楽しんで行くようになりました。親子で参加するイベントなどもあり、私自身も交流の輪が広がりました。

また、指導員の人たちは子育てを経験した人が多く、子育ての悩みを相談したり、役に立つ話を聞いたりするなど、子育てをする上での支えにもなりました。

仕事と子育てを両立することは大変ですが、児童クラブを利用することで、安心して仕事に専念することができました。また、子どもも、家族以外の人たちと接する機会が増えることで成長にもつながり、親と子どもらにとっても良い事業だと思います。

復職をサポート！

子育て世代就職支援事業

予算額 46万円

結婚や出産などで離職した子育て世代の看護師を対象に、市内の医療機関と連携して復職のためのセミナーを開催。昨年度は11人が受講し、うち4人が復職しました。

保育士等研修事業

予算額 80万円

子育て世代で休職中の保育士を対象に、南九州大学と連携して復職のための研修を開催。昨年度は11人が受講し、うち4人が復職しました。今年度も、保育現場への復帰を支援するとともに、保育士不足の解消にも取り組みます。

山之口子育て支援センター
内田 香織さん



新しい制度の内容などを、詳しく教えてもらい、託児もあつたため、安心して勉強に専念することができました。保育士の仕事のやりがいや魅力に改めて気付く良いきっかけにもなったので、より多くの人に受講してもらいたいです。

たため、安心して勉強に専念することができました。保育士の仕事のやりがいや魅力に改めて気付く良いきっかけにもなったので、より多くの人に受講してもらいたいです。



働くママも サポート します!



ファミリーサポートセンター ファミリーサポートセンター

ファミリーサポートセンター事業

予算額 **851万円**

育児の援助を受けたい人と、子育て世帯の援助をしたい人による相互援助活動「ファミリーサポート事業（通称・ファミサポ）」事前に登録した利用会員が、サポートを必要とするときに、援助会員が支援します。

また、市では、利用料の一部を平成28年度から助成。より利用しやすくなりました。

支援の例

- ・保育施設や塾など児童の送迎
- ・急な残業のときの預かり
- ・保護者が病気のときの預かり

利用料金（1人・1時間当たり）

月曜日～金曜日 午前7時～午後7時	600円
上記以外	700円
平成28年4月1日より 利用料1時間あたり 300円を補助 (第1子のみ)	
H28.4～ 月曜日～金曜日 午前7時～午後7時	300円
上記以外	400円

※キャンセル料は補助対象外です。

都市部ファミリーサポートセンター（ファミサポ）から一言



アドバイザー
茶園 洋子さん

私たちファミサポでは、昨年度、延べ3,071件もの援助を行いました。この数字は、平成27年度と比較すると、約1,200件ほど増えています。利用料の一部助成が始まったことで、より利用しやすくなったことが影響しているものと考えています。

主な利用状況は、塾や習い事の送迎が最も多く、そのほか、お母さんたちの急な残業のときの一時的な預かりや、子育てから少し離れてリフレッシュすることなどにも役立ててもらっています。

ファミサポでは、これからも、援助会員を増やすための講座などを開催しながら、子育て家族を積極的に応援していきます。



女性の社会進出を後押し！ 女性活躍促進事業

予算額 **288万円**

妊娠・出産・育児などで就労が難しい女性が、起業・就業へつながる知識を習得できるよう、セミナーやワークショップなどを開催。起業から就業まで、女性の多様な働き方を促します。

昨年度開催した「ウーマンプロジェクト」では、起業・在宅ワークなど、新しい働き方や生き方を紹介するセミナーや、在宅でウェブデザイナーを目指す講座などを開催。就労支援だけでなく、育児の悩みを相談したり、情報交換の場としても役立てられています。

伊藤 香奈子さん
(鷹尾三丁目)



今まで知らなかった職業を知ったり、仕事と両立するための効率的な家事など、普段の生活を見直したりする良いきっかけになりました。同じ世代の女性が参加し、意見交換などもできるので、気軽に参加してみてください。